

子供の好きな色と使う色の関係

1. はじめに

最近のテレビ番組などで、子供の早熟化が進んでいると報道されるのを見聞きすることがある。私は子供の頃から絵を描くことが大変好きであった。そこで現代の子供の好きな色は自分が幼いころ(10年前)と比べて変化があるのかに興味を持った。

2. 仮説

そこで私は以下の仮説を立てた。

仮説 1

「男の子は赤や青などの男らしさを連想させるような色が多く、女の子はピンクなどのかわいらしい色が多くなる」

仮説 2

「ジェンダーフリーが定着しつつある現代において、私の幼いころより男女で一番人気のある色が変化している」

3. データの収集および集計

3-1 収集場所および対象者

・保育園

私の卒園した保育園に調査協力を依頼した。

社会福祉法人双葉会 ふたば保育園 男の子:60人 女の子:63人

・中学生および高校生

GoogleForms のアンケートにより 86名が回答

質問は、「幼少期における好きな色」とした。

3-2 収集の留意点

収集に際し、保育園および園児になるべく負担を掛けず短時間で行える手法であること。および、園児はまだ読み書きができないことや、他者の意見に左右されやすいことに留意し収集方法を検討した。

3-3 色の区分

データの色は、園児たちに一番なじみのある、サクラクレパスのクレヨン 16色を基準とし収集を行った。(こげ茶、灰色、黄土色は、選択者がいないため赤、青、黄、黄緑、水色、緑、ピンク、オレンジ、紫、茶、白、黒、肌色 計 13色のデータを記載する)

3-4 調査方法

・園児に対する好きな色の調査方法

園児に好きな色をクレヨン箱の外に出してもらい、業後集計する。

・園児に対する使う色の調査方法

一番よく使う色のクレヨンが短くなっていると考え、短いクレヨンの色を集計する。



3-5 データのグラフ化

調査結果の割合を円グラフにする。

Chart.1 好きな色(男の子)

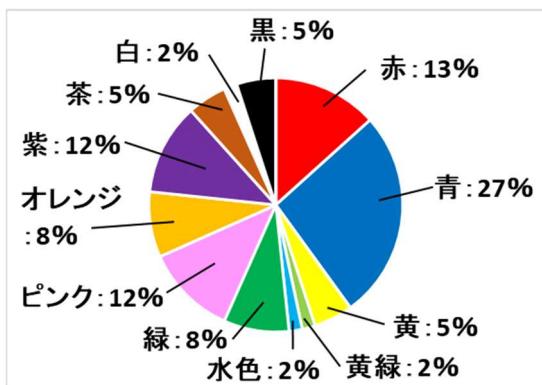


Chart.2 好きな色(女の子)

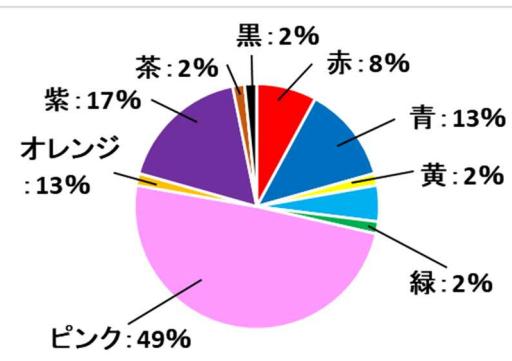


Chart.3 一番使う色(男の子)

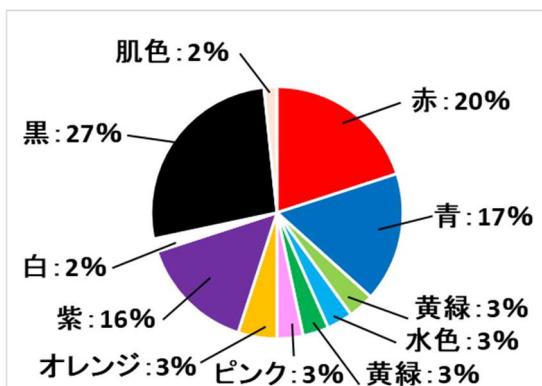


Chart.4 一番使う色(女の子)

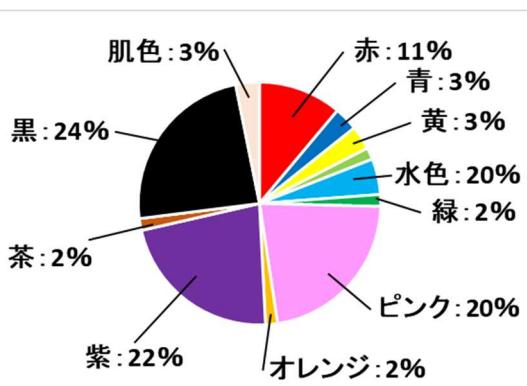


Chart.5 好きであった色(男子中高生)

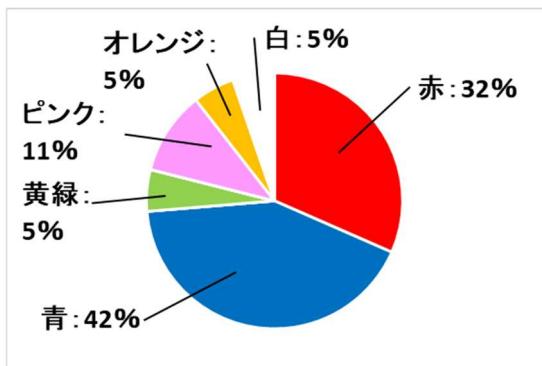
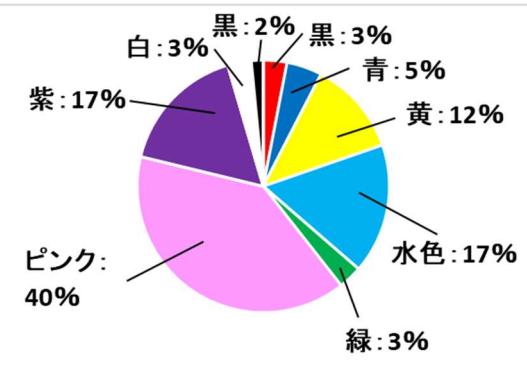


Chart.6 好きであった色(女子中高生)



4. 分析

4-1 仮説 1 「男の子は赤や青などの男らしさを連想させるような色が多く、女の子はピンクなどのかわいらしい色が多くなる」の検証

4-1-1 仮説 1 の考察

Chart. 1 から男の子は赤および青が 40% を占めている。また Chart. 2 では女の子はピンクが 49% を占めており仮説 1 は正しいと考えられる。しかし男の子の中にはかわいらしいイメージを持つピンクの割合 (12%) も多い。なぜこのような結果になったのか、仮説 3 「男の子は年長は描く絵が多様でたくさんの色を使うからではないか」を立てる。

一番使う色以外の色、赤や紫、黒、肌色などの割合に大きな違いは見られなかった。直接園児の子たちにいつも描いている絵を見せてもらったところ、それは男女でよく描く絵の違いはあるが、黒色で外枠をかいたり、紫色は赤色と青色の中間色で男女ともに使いやすい色だからなのではないかと考察する。

4-2 仮説 3 「男の子は年長は描く絵が多様でたくさんの色を使うからではないか」の検証

4-2-1 データの再集計

仮説 3 を検証するため、収集した男の子のデータを年少・年中・年長別に分け円グラフにする。

Chart.7 好きな色(年少-男の子)

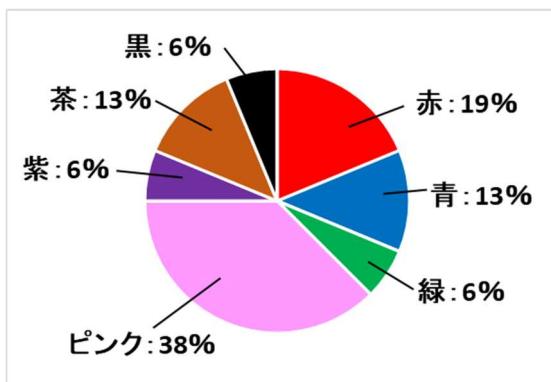


Chart.8 好きな色(年中-男の子)

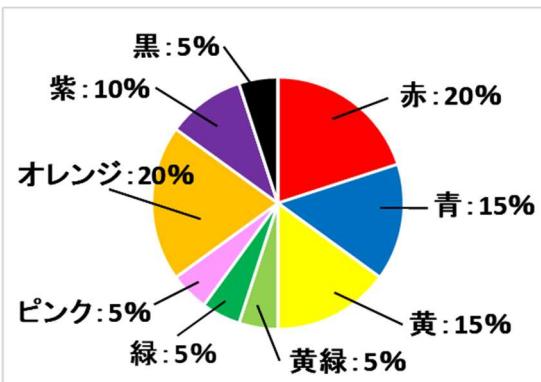
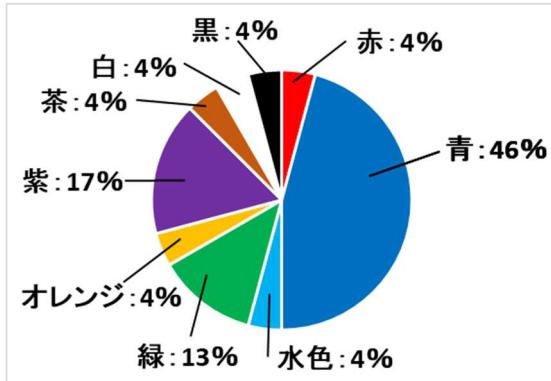


Chart.9 好きな色(年長-男の子)



4-2-2 仮説 3 の考察

調査 1 の結果で思いのほか割合が多かったピンクの正体は Chart. 7 から年少児のピンクの割合が多いことにすると分かった。

仮説 3 は年長が原因にあると考えていたため、仮説は正しくないと言える。参考文献 1 により男の子はチャレンジ精神や使命感が、学年が上がるにつれ強くなつていき、女の子は協調性が発達していくと記載されている。よつて、私は、年少児はまだ男の子らしさや女の子らしさというものがあまりはつきりしておらず、男女に大きな差がないことが原因であると考察した。しかし今はジェンダーフリーの時代になってきていて私が子供の時よりも男女の格差が縮まつてきているのではないかと思う。参考文献 2 によりまた年少児くらいの子供は何でも真似したくなる習性(同化)があることから、私は上の学年に比べて、選ぶ色の種類が少なくなり、男女差も大きくならないのではないかと考察する。

4-3 仮説 2 「ジェンダーフリーが定着しつつある現代において、私の幼いころより男女で一番人気のある色が変化している」の検証

4-3-1 仮説 2 の考察

Chart. 1 と Chart. 5 を比較してみるとどちらとも青と赤の割合が高い。Chart. 2 と Chart. 6 を比較してみるとピンクの占める割合が著しく高いことがわかる。この結果より、男の子は「青」や女の子は「ピンク」などといった固定観念が園児にもあり、ジェンダーフリーが浸透していないと考える。よつて仮説 2 は正しいとは言えない。

5. 結論

以上の結果・考察から仮説 1 「男の子は赤や青などの男らしさを連想させるような色が多く、女の子はピンクなどのかわいらしい色が多くなる」は、正しいが、年少児の子供は男女の差があまりないと判断できる。仮説 2 「ジェンダーフリーになりつつあるこの時代、私の幼いころより男女で一番人気のある色が変化している」は、まだ保育園まではジェンダーフリーが浸透していないということが分かった。

6. 反省点

今回調査をしたのは、一つの保育園であり、園内での流行によって回答が左右されている可能性も考えられることから、もっと多くの保育園に調査するべきであったと思う。また、クレヨンの一番短い色を調べる際、クレヨンの単色での補充や兄弟からのおさがりなどによりデータが変化してしまうことを今回の調査方法は配慮できていなかった。

中高生への調査においても、乳幼児の記憶を基にした回答であり、統計上の比較対象として適切であったか疑問も残るところであり、科学的に基づいた調査結果を十分に得ることができなかつた。

7. 参考文献

- 1) teniteo.jp “幼児期から表れている男女差。違いを理解してうまく育児に生かそう” <https://teniteo.jp>
- 2) ベビーパーク “3歳児のできることってどんなこと?成長の目安や発達状態を解説”
<https://www.babypark.jp>

8. 謝辞

社会福祉法人双葉会 ふたば保育園